

STYLING

VOL.108
MITSUI HOME
SINCE 1974~

●【三井ホーム】

Photo/Mitsui Home Archives

Text/Teruhiko Doi

MONO



西部開拓時代のアメリカで始まった
ツーバイフォー工法の住宅を
日本で最初に採り入れたのが
三井ホームである。



1985年発表のチューダーヒルズ

鉄は国家なり、という言葉がある。
産業革命期以降、

鉄の生産量そのものが

国力とされていた頃の価値観だ。

戦後日本でもこの言葉は盛んに使われ、

事実、国策として鉄の増産に

力を入れた結果、わが国が

鉄の生産量世界一だった時期もある。

鉄はインフラ整備に不可欠な

資源であり、農政の基幹である

米に喻えた産業のコメとも呼ばれた。

そんな鉄の消費が国策だった時代、

軽量・鉄骨プレハブの住宅ラッシュが、

戦後復興の機運の中で大流行した。

高度経済成長期が終わっても尚、

供給より需要が勝る中、工業化され、

画一化された家が多くつくられた。

そんな中、三井ホームは1974年に創業。

既成の家を選ぶことが殆どだった

当分の分譲住宅とは異なり、

住む人の個性とこだわりを形にする

独自の世界感を作りあげたのだった。

STYLING



SONOMA(ソノマ)のコンセプトは「暮らし方から考えるオーダーメイド」。自然素材である“木”を中心に、タイルやレンガ、ガラス、アイアンといった素材を組み合わせた家づくりは、自分の好きなことにご自分の価値観を意識して開発された。木の外装材をあしらった外観からイメージされるように、内装材で使用する木は質感を大切にチョイス。北米産レッドシダーの内装材、北欧パインで出来た木製サッシ、国産材のバルコニーなど、豊かな自然の温もりを感じられるインテリア。そうした木の質感の中に、石畳タイルやアンティークガラス、アイアンとウッドを組み合わせたストリップ階段などなど、こだわりのところが随所にある。床材は時と共に風合いを増すフローリング材を採用。また、さまざまな地域環境に配慮したファサードデザインを用意して、自分が住む家が街全体のバランス感を守ってくれるのも嬉しい。



↑左:住まいの中心に配置されたアクティブダイニング。コミュニケーションを第一に考えたデザインである。↑右:玄関脇の土間空間にプチ・ガレージ。石畳タイルの床はアウトドアなどの趣味世界をお洒落に演出。つついSNSの発信をしなくなる空間。↓階段を登った二階の吹き抜けに面してプチ・ライブラリー。“知”を家族で共有することも可能な、本の収納における新しい提案である。



雄大な森林資源を有する
カリフォルニア州ソノマ。
ワイン好きならその地名に聞き覚えが
あるかもしれない。
そんな美しい場所の名を冠した
住宅『ソノマ』は、2015年発表の
三井ホームの人気モデル。
企画担当者が100軒以上のカフェを視察して、

ソノマのスタイルが開発されたという。
人が長く住むことを考え抜いており
エイジングしていくことで、味わいの出る
鉄やレンガ、木の組合せなどが魅力。
現代のコミュニケーションスタイルに合わせて
ダイニングが絶妙な位置に配置されている。
インテリア、エクステリア共に、長く使うことで、
味という、さらに新しい価値が生まれる家。

SONOMA



ツーバイフォーは共通モジュール。いい素材ならば次世代へと受け継がれる材料にもなるのだ。

いまさら聞けない、
ツーバイフォー住宅って？
しばしば耳にするツーバイフォー住宅という言葉。「2×4住宅」と表記されることもあるが、これは家を建てる時に最も多く使われる柱（角材）のサイズが、2インチ×4インチであるため。正しくは木造建築の工法のひとつである「木造桧組壁工法」に分類されるもの。住宅建築に精通した職人が少なかった西部開拓時代に誕生した工法で、均一サイズの角材と合板を接合して箱型の空間を作っていく方法である。構造的に、面での強度が高いので、より広い空間や自由度の高いスペースが生まみ出される、という利点がある。さらに耐震性や耐風性も高い。近年国内で発生した大きな地震の際にも、ツーバイフォーで建てられた家は倒壊などの被害が少なかった、という実績もある。高気密・高断熱で冷暖房費が抑えられて省エネ。一般的に耐火性能が高いという認識で、火災保険料削減のメリットも。



←写真左:西洋風なイメージでネーミングされた住宅としては日本で最初の住宅である「ウィンザー」。

国内で2×4住宅がオープン化されたその年に創業。洗練された住宅デザインが、日本の街を変えた!

1970年代の後半、日本の街並みに西洋風の瀟洒な住宅が目立つようになってきた。それらは昔からの和風建築の家ではなく、またプレハブでもなかった。それまで目にしたことがなかったようなカラーリングと住宅の顔が印象的な外觀デザインは、やがて「ツーバーフォー」で建てられた家と判るようになった。おそらく、日本の住宅街に明るく、開放的な家が目立つようになってきたのはこの時期から。その先頭を走っていた住宅メーカーが、日本でツーバーフォーがオープン化された年に設立された「三井ホーム」だった。

戦後の焼け野原から復興した日本は、高度経済成長期に国策として製鉄業に注力していた。鉄はインフラの整備には欠かせない素材であり、同時に復興の証ともいえる住宅建設の面でも鉄を使ったプレハブ住宅がどんどん建てられていた。しかし、モノというのはある程度充足すると、そこから人の好みが変わって個人になる。この時代に誰もが

欲しがった家電などの耐久消費財における三種の神器は、やがて「一人とは違うものが欲しい」という欲求へと変わっていった。住宅も同様である。同じような印象のプレハブや建売住宅が立ち並ぶ家に魅力を感じなくなった消費者は、新たな形態の住宅を求めるようになっていった。ライフスタイルの変化が主な要因として考えられるのだが、均一化された大量生産住宅の次に来るものとして、三井ホームが着目したツーバーフォーの木造注文住宅は、まさに戦後や高度経済成長といった言葉が過去のものとなりつつあった時代に、最適の世界観だったのである。

当時、在来工法の木組み住宅は職人によるバラつきがあった。いい大工に当たればいいが、そうでなかった場合の問題も頻発していた。一方、北米では住宅建築の均一化が果たされており、その要因が安定した品質を実現していたツーバーフォー工法だった。三井ホームが推進したツーバーフォー住宅は、日本人にとってなじみ深い、木々を使っ

た住宅だった。また、工場生産で均一化された材料を使っているために、工期も短く済んだ。当然、そこにかかるコストも抑えられることになる。さらに地震が多い国の建築物として最適な耐震構造に長けていた。実際、1974年の創業から2年後には、建設省「現国土交通省 建築研究所」の強度実験を実施し、一般木造住宅の2.3倍の強度を実証。耐久試験も同時期に行われていた。その後、1978年に発売されたのが「ヨロロピアンシリーズ「ウィンザー」」だった。この洋風のライフスタイルを提案する家は、住宅のデザインと空間構成の斬新さで、日本の住まいに新たな流れを作ったのである。また、住宅に初めて海外の地名などのネーミングが採用されるようになったのもここから。

以降、三井ホームはさまざまなデザインの家を生み出し、独自の技術開発なども多数行っている。西洋からの輸入住宅をそのまま日本で建てるのではなく、日本の気候風土、日本人の生活スタイル、そして社会的ニ

ズなども家づくりに反映させているのだ。それは北米のツーバーフォーが、日本で独自の進化を遂げたと考えていいかもしれない。20年前なら、施主のわがままを全部聞くような家がいい家の条件だった。しかし現代は住宅へのリテラシーが上がって、環境への配慮や、住宅そのものの耐久性が求められる時代になったのである。

日本の住宅は古くから「風通しを持って最良とすべし」という考え方があった。つまり夏の住まいを考えた家づくりだ。しかし素材や技術が進化した現在、三井ホームの家はどの季節でも機能を発揮できる家へと進化している。全館空調は15年ほど前から実現しているし、建物全体が魔法びんのようになっている。空調によるエネルギーロスが最小に抑えられているのだ。

現代におけるいい住宅の条件はデザイン、耐久性、技術。この条件が揃ってこそ新しい住まいの価値創造が生まれる。三井ホームの住宅には、この先何十年も価値ある家であり続けるための哲学が詰まっているのである。日本の住宅街や街並みが、洗練されるきっかけを作った三井ホーム。ある意味、日本の街並みをデザインしている住宅メーカー、といえるだろう。



初期の「ウィンザー」と共に、ツーバーフォー住宅の代名詞的モデルとしてヒットした1978年発表「マッキンレー」(旧千葉モデルハウス)。



WEST WOOD (ウエストウッド) / まるでアメリカ西海岸の、抜けるような青空の下に行んでいるかのような、アーリー・アメリカン・スタイルのデザインが魅力的なウエストウッド。縦と横に広がる開放的な空間デザイン。夢のある三角屋根の外観、平屋に屋根裏部屋をプラスすることで、安心・安全と程よい距離感のコミュニケーションが生まれる家である。

STYLING

三井ホーム本社がある
新宿三井ビル。



三井ホームに関するお問い合わせは
●三井ホーム
<http://www.mitsuihome.co.jp>



VENCE

ヴァンス/上質なフレンチスタイルの家として注目されるモデル。美しさが計算し尽されたような外観設計、ディテールや質感もこだわり満載。まるで洋画の中に出てくるような吹き抜けの大空間は、パーティの雰囲気間違いなく盛り上げてくれるはず。リビングやダイニングの空間の取り方も、余裕たっぷり。モデルルームでは、リビングの壁面に大きなファブリックを配して、より印象的なインテリアに設えてある。

Oakley

オークリー/切妻屋根の深い軒が印象的なラグジュアリーな日本風モデル。“大人が楽しむ家”というコンセプトを打ち出し、エクステリアで使用されているのは本物の味わいを感じさせる天然木や豊かな質感の外壁。インテリアも木の温もりを感じさせる素材を多用し、時を重ねるほどに愛着と深みが増すデザインとなっている。天然木のフローリングや薪ストーブなどのオプションにも対応して、上質感満載。



chou chou

・ シュシュ ・

シュシュ/女性目線でデザインされたフレンチモダンな家。エレガントな外観デザインで、個性的な装飾アイテムが多彩に用意されている。生活の中で「あったらいいな」と思えるインテリアは秀逸で、LDKより一段高くなったマルチスペースやリビングの中のクローゼット、ランドリーからバルコニーまでつながる物干し動線など、間違いなく住まいから新しい価値観が生まれそうなデザインが魅力のモデル。